

# 『安全保障戦略研究』執筆要領

令和4年3月25日

安全保障戦略研究編集委員会編集委員長

## 1 フォーマット・書式

(1) 原稿書式はA4用紙、上余白35mm、下左右余白30mm、40字×36行とし、下余白にページ番号を入れる。

(2) 日本語は全角（括弧含む）・「MS明朝」、英数字は半角・「Century」とする。

(3) 論文表題（副題含む）、要旨、本文は10.5ポイントとする。脚注内テキストは9.0ポイントとする。

(4) 副題の両端には2点ダッシュ（——）を置く。

【例】「人口動態と安全保障——22世紀に向けた防衛力——」

(5) 本文の文字数は、20,000字を上限とする（脚注及び図表内の文字を含み、表題・要旨を含まない）。半角の英数字は1/2文字としてカウントする（\*）。なお、当上限は投稿時のものであり、査読意見を受けて改稿する際には適用されない。

\* MSワードの「文字カウント」機能で、「テキストボックス、脚注、文末脚注を含める」にチェックし、「文字数（スペースを含めない）」の字数と「全角文字+半角カタカナ」の字数を足して2で割った値が、20,000字以内であれば良い。

(6) 表題の後、本文の前に、400字以内で要旨を記述する。

(7) 投稿時には、原稿内に執筆者名や肩書きを記述しない（応募票にのみ記述）。※備考も参照のこと。

(8) 数字の表記は3桁区切りでカンマを付す。西暦年、ページ番号は略さず全桁表記し、カンマを付さない。

【例】1,500億ドル、2015（平成27）年、pp. 1025-1027.

(9) 単位は原則として記号を用い、半角英字で記述する（組文字は使わない）。序数の接尾辞は上付きとしない。

【例】8%、4kg、1,500km、9.3kt、3rd

(10) 日本人の姓名をラテン文字表記する際は、原則として「姓一名」の順で記述する。

## 2 本文

(1) 本文における大見出しには「1.」を、中見出しには「(1)」をそれぞれ付し（全角）、本文中で言及する際は「節」、「項」とする（「章」は使わない）。これらより下位の見出しには、「ア」、「(ア)」等を適宜使用する。ただし項目立ては3階層程度に留めること。

(2) 序論部分（「はじめに」、「序論」等）および結論部分（「結論」、「まとめ」、「結びにかえて」等）には番号を振らない。

(3) 外国人名（漢字文化圏を除く）は初出時にフルネームをカタカナ表記した後にラテン文字表記（全角丸括弧内に半角アルファベット）を付記する。非ラテン文字言語の場合はラテン文字に転写する。ミドルネームの扱い等、慣行があれば従ってもよい。

【例】「デビッド・リカード(David Ricard)」、「フランソワ・ケネー(François Quesnay)」、「ウラジーミル・プーチン(Vladimir V. Putin)」、「ファラグ・フォーダ(Faraj Fūda)」

(4) ラテン文字の略語は初出時に日本語名称を併記する。原語の正式名を表記するかは任意だが、論文内で統一すること。

【例】北大西洋条約機構(NATO)、国際通貨基金(International Monetary Fund: IMF)

(5) 語句の表記ルール（送り仮名、漢字表記か仮名表記か等）は論文内で一貫性を持たせること。

【例】及び／および、取組／取り組み、ひとつ／一つ／1つ

### 3 図表

(1) 図表とその標題は、左右中央に配置する。

(2) 図の標題は図の下、表の標題は表の上に付す。

(3) 図・表毎に論文中での通し番号を付す。

【例】表2 世界の人口動態（2015年推計）

(4) 図表の下には必ず「(出所)」として出典を記し、要すれば「(注)」として注釈を付ける。

(5) 図表では多色の使用はできない（黒白の濃淡での表現は可能）。

### 4 脚注

(1) 全般

ア 注はすべて脚注とする。

イ 同一論文においては注の形式の一貫性を持たせること。

ウ 注の様式については本執筆要領によるほか、『安全保障戦略研究』最新号を参照すること。

エ 複数文献を列記する際は、セミコロンでつなぐ（前が日本語文献の場合は全角、欧文文献の場合は半角＋スペース）。

(2) 日本語文献

ア 単行本

著者名（翻訳者名）『書名』（出版社、出版年）頁。

著者名「章名」編著者名『書名』翻訳者名（出版社、出版年）頁。

イ 論文

著者名「論文名」『掲載誌名』巻号数（発行年月）頁。

ウ 新聞

『新聞名』発行年月日（夕刊の場合は明示）。

(3) 欧文文献

ア 単行本

- ・著者, 書籍タイトル (出版地: 出版社, 出版年), p. ページ番号.
- ・著者, “章タイトル,” in 書籍タイトル, ed. 編者 (出版地: 出版社, 出版年), p. ページ番号.

【例】

- ・David M. Glantz, *Soviet Military Operational Art: In Pursuit of Deep Battle* (London: Frank Cass, 1991), p. 65.
- ・Pat Towell, “Congress and Defense,” in *Congress and the Politics of National Security*, ed. David P. Auerswald and Colton C. Campbell (Cambridge: Cambridge University Press, 2012), pp. 79-80.

イ 論文

- ・著者, “論文タイトル,” ジャーナルタイトル, vol. 巻数, no. 号数 (月/季節 年), p. ページ番号.

【例】

- ・Barry Edwards, “Does the Presidency Moderate the President?” *Presidential Studies Quarterly*, vol. 47, no. 1 (March 2017), p. 13.

ウ 新聞

著者, “記事タイトル,” 新聞タイトル, 刊行年月日, p. ページ番号.

【例】

- ・Laurie McGinley, “FDA Nod Could Clear Path for ‘Living Drug,’” *Washington Post*, July 12, 2017, p. A1.

エ インターネット上の文献

(ア) 一般的なウェブページ

著者 (ある場合), “当該ページのタイトル,” ウェブサイトの所有者, 刊行日/最終更新日, URL.

【例】

- ・“U.S. Navy: Navy Cross Recipients,” Department of the Navy, last updated June 1, 2017, <http://valor.defense.gov/Recipients/Navy-Navy-Cross-Recipients/>.

(イ) オンライン定期刊行物

通常の注記の末尾に URL を付ける (アクセス日は不要)。

- ・Robert Pear and Thomas Kaplan, “Senate Republicans Unveil New Health Bill, but Divisions Remain,” *New York Times*, July 13, 2017, <https://www.nytimes.com/2017/07/13/us/politics/senate-republican-health-care-bill.html>.

オ 日付は Month (略記しない) Date, Year の順に表記する。

カ 欧文文献の注記に関し、本執筆要領が規定していない点については、*Chicago Manual of Style*、あるいはこれを簡潔にまとめた“Chicago-Style Citation Quick Guide,” [http://www.chicagomanualofstyle.org/tools\\_citationguide.html](http://www.chicagomanualofstyle.org/tools_citationguide.html).を参照。

(4) 既出文献の再引用

ア 注において同一文献の引用が続く場合は著者名・文献タイトルを省略し、「同上」（日本語文献の場合）、「Ibid.」（欧文文献の場合。立体）と表記する。

イ 既出文献を、他の文献を引用した注を挟んで、再度引用する場合には、著者のラストネームの後に当該文献のタイトルを短くしたタイトルを記す。「前掲書／論文」、「Op. cit.」は使用しない。

【例】

- 初出：Robert M. Gates, *A Passion for Leadership: Lessons on Change and reform from Fifty Years of Public Service* (New York: Knoff, 2016), p. 20.
- 2回目以降：Gates, *A Passion for Leadership*, p. 21.

## 5 備考

(1) 執筆者名と肩書き

ア （掲載が認められた後）執筆者名と肩書きの表記（日英）、共著の場合は並び順を編集委員会が代表執筆者に確認する。

イ 肩書きは原則として掲載誌の刊行予定日時点のものとし、所属組織名のみとする（部署、役職、階級は付さない）。ただし学生の場合は研究科まで表記する。

(2) 謝辞

ア 謝辞は、最終脚注の次行に「[付記]」として表記される。投稿時には最後の脚注として記述すれば、編集委員会が入稿時に調整する。

イ 謝辞対象者の肩書きの表記は、執筆者の肩書きの扱いに準拠する。





## 改訂履歴

令和2年5月29日 初版

令和4年3月25日 改訂（未規定点の追加、誤り・分かりにくい点の修正）